

産経新聞 2014年11月3日

子供の虐待死ゼロ目指す

NPO法人、神戸で署名活動



子供の虐待死ゼロをめざすNPO法人「シンクキッズ」が2日、神戸市中央区の街頭で署名活動を行い、さまざまな防止策を法律で義務づけるよう訴えた。

同法人の代表理事を務める児童虐待防止法の改正を求める署名活動を手伝った林良平さん

2日、神戸市中央区

警察OBの後藤啓二弁護士(55)らが街頭に立ち、全国犯罪被害者の会(あすの会)の林良平代表幹事代行(61)らも応援に駆けつけ、児童相談所と市町村、警察が虐待情報を相互に通報し、人手を出し合って対応すること▽子育てにリスクがある妊産婦の支援▽虐待を受けた子供の無償ケアなどを法律で義務づけるよう求めた。

平成7年、看護師だった妻が包丁で腰を刺され重傷を負った事件を機に、犯罪被害者の保護、支援に力を尽くしてきた林さんは「親に虐待された子供は『忘れられた犯罪被害者』。力になりたい」と話した。

署名は「シンクキッズ」のホームページ(<http://www.thinkkids.jp/>)でも受けつけている。

なくせ子どもの虐待死

神戸、弁護士ら署名活動

「子ども虐待死ゼロ」の命を最優先とした一時保護④子育てが困難な妊産婦への支援⑤虐待された子どもに対する無償の精神的ケア①街であった。関係機関の緊密な連携や親への支援などを盛り込むよう求めており、今後もネットなどで活動を継続。集まった署名は12月に官邸へ提出する。

この日は、全国犯罪被害者の会のメンバーも協力。後藤弁護士は「毎年約1000人の幼い命が奪われている。守るのは大人、社会の最低限の責任」と話した。シンクキッズのホームページ(<http://www.thinkkids.jp/>)でも署名でき

る。(長谷部 崇)



子どもの虐待死ゼロを目指して行われた署名活動。2日午前、神戸市中央区三宮町

元警察官僚で、NPO法人「シンクキッズ」子ども虐待・性犯罪をなくす会」の代表理事、後藤啓二弁護士(55)兵庫県弁護士会が呼び掛け、政府も副大臣会議を設置して対策を検討している。

求める法改正は、①児童相談所、自治体、警察による連携強化と虐待情報の共有②所在不明児童に関する情報システム整備③子ども